

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	英語コミュニケーション I				
担 当 者	脇本聡美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.5	4.6	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>この授業では「英語は使いながら学ぶ」ということを目指していました。おそらく、高校までは英語という科目は正しいスペル、文法、訳、というように正確でなければいけないという思いに縛られていたのではないのでしょうか。しかし、本来、私たちは使うために英語を学習しているはずで、みなさんには英語を使って学ぶ、情報を得る、表現するという経験をたくさんして、自信をつけていてもらいたいと思います。ことばは知的な道具です。暗記するだけでは使えるようにはなりません。使いながらでなければ上達することはありません。教材のニュースを理解することも、英語の発表もねらいは英語を使うことでした。</p> <p>「行きたい海外の都市でしたいこと」をトピックにしたみなさんの英語発表は素晴らしかったです。毎週とても楽しませてもらいました。また、英語で文章を書くことが上手な学生さんがたくさんいたことにも感心しました。発表が楽しかったというコメントが多かったことからみなさんが英語を使って発信できたことに達成感を持てたということがわかりました。</p> <p>これからも、英語を使うことを意識して、いろんなことにチャレンジしてほしいと思います。いつか調べて発表した都市を尋ねて、是非自分の目で見て来ててください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	画像検査学				
担 当 者	砂見愛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>画像検査学では、以下の3点を講義の核として理解してもらうことを目的としてきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2年次後期の生理機能検査学実習Ⅰで学んだ腹部超音波検査 3年次前期の生理機能検査学実習Ⅱで並行して実施する心臓超音波検査 超音波の物理学的特性や医用超音波の原理 <p>講義では毎回、国試問題を5問掲載し、復習・理解を深めてもらうようにしました。また、セクションごとに小テストを実施し、知識の定着を促す機会を設けました。皆さんから「小テストで理解度が上がった」とのコメントをいただき、効果を実感しています。</p> <p>一方で、講義資料については著作権の関係でデータを直接掲載することが難しく、印刷配布としました。そのため、画像によっては見にくい部分もあったかと思います。次回は画像をより大きく示すなど、改善を図りたいと考えています。</p> <p>この講義や実習を通して、超音波検査の面白さに気づき、今後の臨床検査技師としての歩みに役立ててもらえれば嬉しく思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	遺伝子・染色体検査学実習				
担 当 者	溝越祐志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>実習お疲れさまでした。</p> <p>「全部機械がやってくれると思っていたのに、意外に手間と時間がかかる」と感じた方も多かったのではないのでしょうか。一つ一つのステップを丁寧に進めることこそが、解析原理の理解につながると考えています。</p> <p>さて授業評価の結果ですが、設問別に高い評価をいただいた項目は「レポート等のチェック」「試薬の準備」「技術指導」などでした。レポートや技術面での個別指導が評価されたことを嬉しく思います。</p> <p>自分の手で得たデータを前に、これまで学んだ知識や自分で調べた情報を組み合わせて論理的に考え、解決策を導き出していく——これが社会で求められる「力」です。皆さんは今回の実習を通して、その力を十分に鍛えられたと思います。</p> <p>良かった点としては「レポートや事前課題の量がちょうどよかった」「フィードバックがあったので理解が深まった」といった意見が寄せられました。3年生は課題が多いことを意識して調整した部分でもあり、その工夫に気づいてもらえたのは大きな励みです。また「染色体の観察が面白かった」という声もありました。染色体実習は最初から最後まで自分の手を動かせるので、“実習らしさ”を感じてもらえたのだと思います。</p> <p>一方で、PCR 実習では待ち時間が長いと解説が多くなってしまふ点が課題です。先日の学会でも「待ち時間にどのような工夫をしているか」という話題が出ており、同じ悩みを抱えている教員が多いことを知りました。</p> <p>皆さんが体験した PCR は、キャリー・マリス博士が開発し、1993年にノーベル化学賞を受賞した大発明です（博士は残念ながら2019年に亡くられました）。サーマルサイクラーさえあれば大学の実習でも行えるという利便性は、この技術の大きな魅力です。単純な作業に見えますが、その背後には画期的なアイデアが詰まっています。コロナ禍を経験した皆さんだからこそ、PCR の重要性をより実感できたのではないのでしょうか。</p> <p>半年間、本当にお疲れさまでした。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	臨床化学検査学実習Ⅱ				
担 当 者	林伸英、澁谷雪子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>A・B グループに分けて①実習に関連する講義②実習の具体的な操作③実際の実習について①と②は遠隔 (YouTube) で実施しました。この授業でよいと思った点に「(予習動画があることによって) 事前に予習するので、授業がスムーズに進んでよかった。」と遠隔とのハイブリッド実習は「自分のペースで」「じっくり」「何度も」「わかりやすい」の点で学生にとってよかったのではないのでしょうか。レポートについては、どのポイントについて書けばよいか分かるようなレポート用フォーマットを配付して報告してもらいました。この授業でよいと思った点に「臨床化学において押さえるべきポイントが実習・レポート・課題にまとまっていると感じた。」との意見があり、実習中にレポートが書ける、レポート量が多くなく、早く帰れる、書くべきことが明確なのでやる気にも繋がると好評でありました。実際に実習以外にかけている全体の学修時間はレポート用フォーマットの配付前より減少していて、負担の集中する時期での皆さんの負担を若干ではありますが、減らすことができたように思います。また、最後で実施したグループワークでは、実際の対面でのやり取りや manaba を利用したプロジェクトがうまく活用でき、意見交換がうまくまとめられていたと思います。「他の実習科目では、最後の授業に発表があり何教科もかぶっていたので大変だったが、(本実習は) 事前に課題が提示され、じっくり班で考える時間があつたため余裕があつて良かった。」と事前に課題提示するやり方もよかったと思います。</p> <p>今年度から卒業研究のゼミ生に試薬作成のサポートや本実習時にアドバイスしてもらう運用を導入しました。「[実習科目] 技術指導は適切だった。」は全体の 83%が満足し、学生からのメッセージで「ゼミの先輩方が巡回してレポートの解き方などを教えてくださったので、理解しやすかったです。」との意見があり、このやり方が効果を発揮しているものと考えられる。</p> <p>一部の学生からは、ペアで実験を行う際の負担について意見がありました。「ペアで1実験にすると、操作が十分にできない人と組んだ場合、結果が不安定になったり、分注や希釈を自分一人でやる必要があり、場合によってはペアが行った分をやり直さなければならず、時間がかかってしまう。」という指摘です。班の組み方については教員が熟慮して決定していますが、現状では片方の学生に負担が集中するケースが生じているのも事実です。今後は、学生の習熟度</p>					

を踏まえた組み合わせへの配慮に加え、ペア作業の中で操作をより明確に分担できるよう工夫するとともに、必要に応じて教員による個々の確認作業や補助指導を取り入れながら、実習が円滑に進むよう改善していきたいと考えています。

グループ課題について、「個人的に集まって課題をしようとしてもほとんどやらない人が多数いた。勝手に帰る人もいた。ほとんど1人、2人でやったグループ課題で、やってない人と同じような評価になるのは嫌だなと思う。」今年度は、グループ単位で集まって考察する時間が十分に確保できなかったことが一因であると思われます。今後は、授業内にグループ単位で課題を考案・整理する時間を設けることで、全員が参加しやすい環境を整え、課題の公平性と学習効果を高めていきたいと考えています。

「(学生自身) この授業に意欲的に参加した」全体の82%、「(実習科目) レポートや課題などのチェックや指導は適切だった」全体の93%、また「質問に対して丁寧に答えてくださった。」とのメッセージがあり、「(総合評価) この授業を受けて満足している」全体の83%が満足している結果で、この実習の授業運営の工夫として、遠隔(動画)による事前説明と対面での実習を組み合わせたことにより、学生は実習の内容や流れを理解した上で臨むことができました。その結果、自ら実験の手順を考えながら取り組む姿勢が育まれたと考えられます。

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	大学道場 mini ゼミ A				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.8	4.7	4.4	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>学科の垣根を越えて様々な学科から6名が集まり、将来目指している医療職でのワンステップアップを各自で考えていきました。</p> <p>最初、漠然と考えていた自分の将来像はメンバーの話を聞いて変化していきましたか。進行役をして人前で話をする事、傾聴や話す人の表情を読むこと、ご自分のコミュニケーション力はどうでしたか。振り返りレポートを書き、文字にすることによってより思いが深まり、ご自分の将来像がはっきりしてきましたか。</p> <p>～チャレンジする、その心を常にもっていることが大事～</p> <p>医療職として社会へ旅立ち、様々な職場環境を体験すると思います。そのシュッエーションの中で単調な業務の繰り返しに埋没されることなく、ご自分のステップアップを意識して、常に向上心を持っておくことが大切です。他人と比べるのではなく過去の自分と比べて成長した部分を認めること、人と違う部分をどのように活かすことができるか考えること、失敗をただ悔やむのではなく、成功につなげるためにこれから何をすべきか考えることを意識すること。</p> <p>メンバーのそれぞれがご自分のよい性格を見出し、過去と対比して今の自分自身と向き合い、ご自分の苦手な部分を再認識する機会が与えられたならこのゼミの意義は遂げられました。将来、もし立ち止まるようなことができたら、このゼミでのご自身で刻んだ言葉を思い出して次のステップアップにつなげて頂けたらありがたいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床化学検査学 I				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	3.9	4.0	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>臨床化学検査学（I・II）は国試に出題されてきた内容および重要な事項を理解してもらうために、教科書にそって講義をつくる必要があると考えています。しかし、教科書を使った内容が中心になってしまうと、平坦で退屈な授業になってしまいがちです。そうならないように臨床化学検査学 I では動画の教材やスライドを使ったプレゼンを挟み込みながら授業をしました。また、重要な部分にラインマーカーを引き授業を行うことは必要だと考えていますが、マーカーを引くことに集中してしまうと授業の内容が耳に入らず、理解度の低下につながってしまう。その対策として、事前にマーカーを引いた教科書の PDF を授業単位毎に manaba にアップし、自分の教科書にマーカーを引き、その箇所を予習するようにしました。この授業でよいと思った点に「マーカーを引くところが決められていたので大切なところがわかりやすかった。」とあり、ラインマーカーを引いた教科書の PDF を事前にアップして予習しておくことが授業の理解度をあげられる点で、小テストで重要な部分の再確認と復習ができる点で、このような進め方がよかったと思っています。「(授業方法) 板書、スライド、教材などの使い方は適切だった」との回答が普通を含めて全体の 97%あり、これに続く臨床化学検査学 II も I と同様な進め方で、わかりやすい授業になるように努めます。学生からは、「ページを変えるときにページ数を言わずに進められることがあり、困ることがあるので、ページ数を忘れずに言うか、画面に表示していただきたい」との意見がありました。今後は、ページ数を必ず示すようにする、あるいは画面に表示するなど、学生が安心して授業に集中できるよう配慮していきたいと思えます。</p> <p>予習は大変だったと思いますが、教科書につけたマーカーはあなた方が 3 年生になって B6 カードを使うようになると国試の過去問とマーカーの箇所が一致し、マーカーをした意義がわかってもらえるように思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	対人援助技術演習				
担 当 者	江崎ひろみ・今西麻紀子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.3	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>毎授業ごとのミニツツペーパーへのコメントや本授業評価のおかげで、授業の改善点がわかりました。ありがとうございました。</p> <p>本科目は M2 前期前半で、生体データを取る演習の経験の少ない時期での授業でした。授業内でミニ体験する中で、対象（患者とその家族）の心理理解を深め、普段気づきにくい危険予測力を醸成するような授業づくりを心掛けました。また、感染対策を取りながら、学生相互に意見交換ができる機会を持つこと、授業の振り返りコメントを共有することで他者の意見から考察を深められた方が多くいらっしゃいました。臨床現場で必要となる移乗・移送技術演習については、教員 2 名体制で、学生の安全を確保しながら基本技術の知識習得を目指しました。検査室など狭小空間での車いす操作は実践的な技術と危険予測の視点が養われたと思います。今後の臨地実習に活かしてください。（江崎・今西）</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	基礎生物				
担 当 者	松元英理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.6	4.6	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>お疲れさまでした。</p> <p>「生物学」を理解していただけたでしょうか。そして「生物学」を少しは好きになっていただけたでしょうか。</p> <p>「基礎生物」で学んだことがこれからの専門基礎科目の土台になります。すでに後期の専門科目の難しさを感じている人は多いと思いますが、「基礎生物」の毎回の manaba テストで培った継続的な学修習慣をこれからも続けられれば何とかなります。</p> <p>いただいたコメントから…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画や画像での説明がわかりやすい。→ありがとうございます。「樹状細胞による T 細胞活性化」の動画はなかなかの見ものでしたね。 ・manaba の小テスト、演習問題で自然と復習ができた。→よかったです。毎回課題を提出することで、きっと学修習慣がついていると思います。 					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	細胞検査学				
担 当 者	布引 治				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.5	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>細胞検査学は現場でしか得られない貴重な資料を中心に授業しました。細胞診は多くの細胞像を見ることによって力がつきます。授業後半は国試の過去問題を 30 年分解いてもらい、国試問題の肝を学んでいただきました。授業を通じて細胞検査士の仕事の面白さを感じていただけたら幸いです。</p> <p>学生コメント</p> <p>①スライドの PDF 公開が嬉しかった。解説もあとからゆっくり見返せるので良かった。 →今時の勉強法ですね。国試の勉強にも使ってみてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	細胞検査学特論 I				
担 当 者	布引 治 佐野 太亮 梶山 和樹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.8	4.3	4.3	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>前期は順調に学んでいただきました。後半、12月までこの調子で頑張りましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	細胞検査学特論Ⅱ				
担 当 者	布引 治 佐野太亮 梶山和樹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.7	4.2	4.1	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>前半が終了しました。かなりハードだったと思いますが、スタートした頃の自分を思い出して下さい。着実に向上しています。これからはさらに多くの症例を診て診断力に磨きをかけて下さい。所蔵の専門書をさらに読んで実力を高めて下さい。これからどんどん面白くなりますよ。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	医療英語				
担 当 者	山崎麻由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	3.9	4.0	3.9	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>「医療英語」では専門科目をご担当の3人の先生方に講義を担当していただきました。それぞれのご専門の立場から「研究」「留学」「グローバルな視点をもつ臨床検査技師」という皆さんの将来役に立つテーマで講義していただきました。いずれも興味深い講義でした。また皆さんにとって英語を学ぶモチベーションになったかと思います。授業評価も高評価でした。研究や仕事の上での英語の必要性や英語学習のヒントを下さったので、今後の学習に役立ててください。</p> <p>臨床現場での患者さんとのやり取りの表現は、是非おぼえておいてほしいです。独特の表現や定型の表現があります。そのような表現を使うとスムーズに患者さんとやり取りすることができます。それは患者さんに安心していただくためにも大切なことだと思います。</p> <p>「医療英語」で学んだことはこれから先に必要な英語のほんの一部にしか過ぎません。英語が好きな人、苦手な人、様々だと思いますが、今後は自分にあった英語の付き合い方を見つけてもらえればと思います。医療に携わる職業に英語は必要です。患者さんとのやり取りだけでなく、研究にも必要になってきます。自分なりの方法で学習を続けていってくださることを願っています。</p> <p>本年度使用したテキストは今後も役に立つことと思います。時間を作ってふりかえってみてください。もう一度復習しまとめておいてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	基礎化学				
担 当 者	日尾 泰也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.5	4.5	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価ありがとうございました。</p> <p>高校で化学を履修されていない方や、化学が苦手という方を対象とした授業で、しかも必修ではない授業において、どのように皆さんの学習のモチベーションを上げるべきかに苦心しました。</p> <p>社会人として生きていく知恵を雑談的に話しましたが、学生生活で得るであろうたくさんの幅広い知識を生かして、今後社会に出た段階で役立ててもらいたいと考えています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	生理機能検査学実習Ⅱ				
担 当 者	浦 みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価にご協力頂きありがとうございました。この科目はすべての項目で学科平均を上回る結果となりました。皆さんの頑張りが反映されていると思います。ありがとうございました。</p> <p>高評価の要因の一つに、Student assistant (SA) として4年次生に実習のサポートに入ってもらったことが挙げられると思います。実際、ゼミ生に教えて頂き理解が深まった、という内容のコメントを頂いておりますので、今後も身近な先輩に様々な体験談などを聞ける環境を作っていきたいと思います。皆さんも知識や経験を積んで、1年後には「頼もしい4年次生！」に成長されることを期待しています。</p> <p>皆さんへの助言ですが、今後も予習・復習をしっかりと頂くことで、検査のポイントを理解しやすくなります。また学内実習中の口頭試問は、国家試験対策にもなるよう基礎知識の習得を目的に組み立てていますので、皆さんにとって有意義な時間となるよう、積極的に実習を活用して下さい。出来る限り、その場で皆さんからのご意見を聞いて、その場で皆と一緒に考えて実践していきたいと思っています。</p> <p>いよいよ臨地実習が近づいてきましたが、生理機能検査の現場はとても楽しいものです。臨地実習では、基礎知識があるという前提で、実際の患者様の様子を確認しながら一人の臨床像を把握していきますので、楽しい実習になるよう予習・復習を欠かさず取り組みましょう。また、苦手意識を持たず、明るく元気に振舞っていると、患者様も学生さんのことを応援してくれますよ！それでは次回は技能到達度試験、自信を持って現場に立てるよう、一緒に頑張りましょう！</p> <p>科目責任者：浦 みどり</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	生理機能検査学 I (循環器)				
担 当 者	浦 みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.1	4.0	3.9	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。15回の授業を終えて、循環器の広く深く、そして難しい内容を修得するには、この時間では全く足りないと思います。2年次生では基礎的な知識を習得することが重要ですが、座学だけでは理解が深まりません。後期から始まる実習では、座学で得た知識を存分に生かし、授業だけでは理解が難しかった点は、クラスの皆さんと共に実習の中で一つずつ確認していくことで、断片的な知識が体系的な理解に結びついていきますので、充実した実習が出来るよう前期の復習も頑張ってください。</p> <p>授業評価では、「授業以外に学修した時間」が短く、また「自分で調べ、考える姿勢が身についた」という項目が低評価でした。この科目は事前・事後学修が設定されていますが、自己学習に割く時間が全体的に少なかったようで、その結果、自ら考えたり調べたりする機会も少なかったと考えられます。皆さんの取り組みを増やすためには、課題を強制するよりも、自ら興味を持って学ぶ姿勢を大切にされた方が効果的だとは思いますが、シラバスの内容だけでは学習成果は上がらないと思いますので、今後は毎回課題を課すなどして、目的を明確にして自己学習の時間を確保できるよう、また将来的には自分で課題を見つけて自主的に取り組めるように考えていきたいと思っています。良い案があれば教えてください。</p> <p>頂いたコメントでは、「資料が分かりやすい」「小テストで(定期試験の)準備がしやすい」「授業中に問題を解いて理解を深められる」などのご意見を頂きました。限られた時間の中で非常に多くの内容を学修する科目ですが、先へ進むばかりでなく、皆さんの知識の確認や定着に役立つことは続けていきたいと思っています。前向きなコメント、ありがとうございました。</p> <p>改善して欲しい点で複数の方から「資料の画質を上げて欲しい」という要望がありました。その対策として「manaba にあげて欲しい」というご意見も頂きました。これについては小テストの際のコメントでも頂いたので繰り返しになりますが、授業中にお伝えした通り、元の画像(画質)が悪いスライドも残っていることがあるため、見づらいページは差し替えたり更新したりするので、その都度教えてください。ただ、学内の複合機を使用しているため全体的に画質が悪い点については、改めてお詫びいたします。将来的には manaba を活用するなどしてペーパーレスにしたいと考えていますが、諸々整うまでは、両者を組み合わせるなどして、皆さ</p>					

んのストレスが少ない状態で提供できるよう考えたいと思います。貴重なご意見、ありがとうございました。

その他の複数コメント（2件）では、「授業のスピードが速い」とのこと、循環器は難しい症例も増えていくため、そのベースとなる基礎については丁寧な解説をしたいのですが、解説に時間をかければ、結局は他の項目（臨床・国家試験等の観点からは重要度が低い項目や、3年次にも座学・実習で学習する機会がある内容）を短時間で終了せざるを得ず、そのバランスが悪かったこと、また今年度は小テストの解説に時間をかけ過ぎたことなどが、後半のペース配分に影響したと反省しています。定期試験の出来栄を見ると、他を削ることになっても、2年次生にとって重要な項目に時間をかけることは、必ずしも誤りではなかったと思いますが（つまり皆さんの理解がとても良かった！だから解説はあった方が良さそう）、今後は授業で扱う内容を厳選し、解説は的を絞って丁寧におこない、授業で扱いきれない内容は中途半端に触れずに自己学習で補って頂くなど、メリハリをつけた授業が展開できるよう努めたいと思います。ご意見ありがとうございました。

この授業の中では、生理機能検査や循環器の面白さを伝えることが出来ませんでした。今後はもう少し楽しく学べるよう、皆さんの授業や実習を実りあるものにするために、一緒に考えていきましょう。

科目責任者：浦 みどり

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	病理検査学実習Ⅱ				
担 当 者	佐野 太亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>臨床病理検査学実習Ⅱでは病理検査学で学んだ染色法と一部組織学の復習を行いました。病理検査で行う染色はただ、何が何色に染まったという結果だけが大切な訳ではありません。特殊染色があるのは何かの疾患に対して、H・E染色では得られにくい情報を得るためです。そのため、どの疾患にはどのような染色が必要かを考える必要があります、そのためには基本的な組織構築と疾患による変化を覚えなければいけません。病理検査学は単独の科目ではなく、解剖学、病理学、組織学の基礎の上につながっている科目です。もちろん染色の原理、方法、試薬等を覚えることも大切ですが、解剖学、病理学、組織学の復習も忘れずに行うようにしてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	情報基礎				
担 当 者	佐野 太亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.4	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>情報基礎の授業では、数理データサイエンスやビジネスメールの書き方、そして学内で利用できる google、Microsoft のサービスについて体験してもらいました。</p> <p>特に Microsoft のエクセル、ワード、パワーポイントを活用する機会はこれから多くなってきます。授業の中では、頻繁に使用する機能を主に使用してもらいましたが、まだまだ沢山の便利な機能などがあります。これから使用する中で探してみてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	組織学				
担 当 者	佐野 太亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.2	4.2	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>組織学実習では、解剖学で学んだ知識を土台にして、臓器の構造や機能を「組織レベル」で学んでもらいました。今回はバーチャルスライドや顕微鏡を使って実際に組織の観察を行い、基礎的な構造については理解できたと思います。</p> <p>組織学は解剖学とつながっているだけでなく、今後皆さんが学ぶ「病理検査学」や「病理検査学実習」にもつながっていきます。定期試験に合格しても、時間が経つと知識は忘れてしまうものです。ぜひ定期的に復習して、学んだことを確実に身につけてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	一般検査学				
担 当 者	新谷 路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.1	4.1	4.0	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。</p> <p>コメント欄で『資料（図、写真）が見やすかった』『授業に関心を持って取り組めた』という意見をいただき安心しましたが、授業評価ポイントは、全項目で学科平均を下回るものでした。</p> <p>『单元ごとに小テストをして欲しい』というコメントがありましたので、このように今まで実施していなかったスタイルを取り入れながら授業の改善に努めたいと思います。</p> <p>後期からは一般検査学実習が始まり、教科書で学んだことを実際に体験していただきます。さらに理解が深まり、一般検査の重要性や面白さが伝わることを願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	病理学				
担 当 者	新谷 路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.1	4.2	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。</p> <p>コメント欄で『ワークシートがありがたかった』『資料が見やすく分かりやすかった』『意欲的に授業に参加できた』という意見をいただき安心しましたが、授業評価ポイントは、ほぼ全項目で学科平均を下回りました。より分かりやすい授業になるように、内容、分量、進め方の改善を続けていきます。</p> <p>使用したテキスト『シンプル病理学』は、カラー写真も多く読みやすくまとめられていますので、どうぞ今後も読み続けて下さい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	予防医学				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業への様々なコメントありがとうございました。今年度から始まった講義で、様々な観点から「予防」の大切さへの理解を深め、「医療」及び「公衆衛生の普及向上」において「臨床検査技師は何ができるか」を考えてもらいました。皆さんの考えを読んで整理するために、毎回、授業時間の2倍以上の時間がかかりましたが、私自身もとても勉強になりました。「前回の講義について振り返りをしてくれる点が良かったです。選ばれていたら少し嬉しかったので頑張って考えをまとめて提出しようと思えました」とコメントいただけたことは、とても嬉しいです。これからの医療を担う皆さんに、「自分のことや将来について考える機会が増えて良かった」と思っただけの機会になったなら幸いです。</p> <p>昨年度は4年生に公衆衛生のお話する機会が特論しかなく、私がしたい話、聞いてほしい話と国試対策が混在してしまいました。今年は予防医学で「したい話」ができましたので、特論は国試対策に専念します。公衆衛生学でわからないことがあれば、いつでも何でも遠慮なく質問してくださいね。全面的にサポートします。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	保健医療福祉総論				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.3	4.5	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業への様々なコメントありがとうございました。保健医療福祉について、1年次の公衆衛生学Ⅰと公衆衛生学Ⅱをベースに、法律の観点と最近の動向を中心にお話しました。「法律には難しいイメージがあったけど、わかりやすく説明されていて、よかったです。」「資料が新しいものを使用している。」とコメントいただき、授業の目指すところがきちんと伝わっていて良かったです。毎回の課題についても、「毎回のアンケート課題が授業の復習になったので良かったです。」「学習シートの活用で授業の振り返りがしやすかった。」「質問等に丁寧に答えている」等と前向きなコメントをいただきました。授業内容と授業方法について、学科平均以上の評価をいただき安堵しました。「教室が狭い」についてはご容赦ください……。</p> <p>授業中にいただいたご意見も含め、皆様の後輩の授業に役立てていきます。ありがとうございました。</p> <p>公衆衛生学分野の次は、4年生の「予防医学」です。定期試験の自由記載は、「保健医療福祉総論」と「予防医学」と同じ内容です。これから専門教育を積み重ねて、より成長された皆様と共に学べる日を楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学 I				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.3	4.5	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業への様々なコメントありがとうございました。毎回の課題を負担に感じることもあったかもしれませんが、しかし、「毎回、事前学習があったので、講義内容がすんなり理解できました。」 「授業毎に提出した意見や質問などを取り上げていたことです。(色々な意見をしれて良かった)」など、前向きなコメントもいただきました。実際、80人以上の同級生からの意見は、本当に幅広く、実感と関心を伴って聴いてもらえたかと思います。毎回のご意見・質問に応えることで、私自身もとても勉強になりました。結果的に、授業内容や授業方法について、学科平均以上の評価をいただき、とても嬉しいです。</p> <p>改善すべき点について:「少し分かりにくい横文字でお話されている時があって、調べなければいけないときがあったのでもう少し言葉をくずして頂けるとありがたいです」←分かりにくい横文字はできるだけ使わないよう、うっかり使った時には説明を加えるよう意識しているつもりでしたが、まだまだでした。さらに心します。自分で調べるのは勉強になりますが、ネット等は不正確な場合も多いので、いつでも遠慮なく質問してくださいね。</p> <p>「教科書の良い活用法をもっと詳しく教えていただきたかったです」←前期の公衆衛生学 I だけでなく、後期の公衆衛生学 II と 2 年次の保健医療福祉総論で、教科書の全体をカバーします。授業に限らず、健康や保健医療福祉に関する事で何か疑問に思った時に役立つ教科書です。</p> <p>「良い活用法」という視点でも納得してもらえよう、後期に工夫します。</p> <p>「穴埋め式にしてほしい」「語句に対する理解を深めたいのでレジュメの語句のキーワードをカッコ抜きでやって欲しい」←後期の公衆衛生学 II から、できるところで工夫します。</p> <p>公衆衛生の楽しさ、大切さをもっともっと知ってもらい、自分で窓をさらに広げ、日々の暮らしでの実践やこれからの学びの助けになるよう頑張ります。引き続きよろしくお願ひします。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	臨床病態学 I				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.0	3.7	3.9	3.8	3.8	
学生へのメッセージ					
<p>授業への様々なコメントありがとうございました。中間評価の時にも申し上げました通り、膨大な内容から大事なことを抜き出して、お伝えするだけで手一杯で、メリハリのある資料に落とし込むところまで力及ばなかった点、反省しきりです。現時点のスライドを出発点として、よりわかりやすく編集・補強し、できた資料から臨床病態学 II、III、特論（国試対策）で共有していきたいと思います。「問題と解説のみのファイル」も工夫します。皆さんから意見や提案をもらいながら、よりよい授業、よりよい学びになるよう努めていきます。これからもよろしくお願いします。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	臨床病態学Ⅲ				
担 当 者	味木 和喜子、井本 しおん、松尾 雅文、中野 正祥、塩谷 英之				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.2	4.2	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価ありがとうございました。オムニバス形式で、それぞれの専門分野について最新の情報を含めてわかりやすく講義していただいたと思います。授業内で完結できる内容も多かったためか、「授業以外に学修した時間」が学科平均に及びませんでした。それ以外の項目は概ね平均か平均以上でした。引き続き、先生方とも相談しながら、内容の充実に努めてまいります。</p> <p>(味木)</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	検査入門実習				
担 当 者	伊藤洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>【比色・ピペット 分野 (伊藤・溝越)】</p> <p>皆さんからの評価は学科平均を超え、授業は比較的肯定的に捉えられていたと感じました。検査入門実習は大学1年生前期では唯一の実習で、さまざまな機器・器具を扱う検査技術の第一歩を感じられたことでしょう。予習動画に基づいて実験を比較的スムーズに進めた学生が多く、予習の効果がみられたように思います。</p> <p>実習の予習はとても大切で、予習をすることで実習の目的や操作の概略をつかむことができます。概略をつかむことで、予習ではわからなかったところへの質問ができ、1段階深い理解に繋がります。</p> <p>manaba のコースに載せた資料は今後も閲覧できます。必要に応じて利用してください。また、今後の学生生活ではわからないところは遠慮せず、先生や友達に聞くように意識していきましょう。</p> <p>【化学基礎 分野 (澁谷・日尾)】</p> <p>化学基礎では予習プリントの提出を課し、予習の内容からクイズを実施しました。予習をすることで、内容を理解した上で実習を行うことの大切さを感じて頂けたのではないのでしょうか。</p> <p>実習は、M1 後期～M4 卒業研究で扱う機器の基本的な扱い方・注意点を考える、そして、検査においてどの部分をより「正確」に扱う必要があるのかを考える内容としました。</p> <p>臨床検査技師になるために、これから多くのことを学びます。この実習で学んだ基本を思い出しながら、学んでいきましょう。</p> <p>ポイントは、「時間内に課題を提出する」「自分で学んでいく」「臨床検査技師として必要なことは何かを考える（正確に検査するなど）」「頑張る！」です。</p> <p>【顕微鏡 分野 (佐野・梶山)】</p> <p>臨床現場では、手術や解剖で摘出した組織の肉眼観察、組織切片（凍結または固定切片）、剥離細胞診、さらには体液中の細胞や結晶物を顕微鏡で観察し、診断を行います。顕微鏡は知識がなくても一見それなりに扱うことはできますが、臨床の場では診断の正確性が患者さんの治療に直結するため、誤った結果を出すことは許されません。</p>					

また、顕微鏡を使用している際にトラブルが起きたとき、ただ「顕微鏡に使われている」状態では対応できない場面も出てきます。そのため、顕微鏡の構造や使用方法をしっかりと理解し、日常業務に活かせることが不可欠です。

「理想の検査技師像」を聞くと、多くの人が「迅速で正確な結果を出せる技師になりたい」と答えます。その理想を実現するためにも、自分の武器となる道具——顕微鏡についての知識を深め、使いこなせるようになってください。それが臨床現場で大きな力となります。

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	生理学 I				
担 当 者	堀江修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.0	4.0	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。授業の内容はほぼシラバス通り進行し、授業資料もそろっていたのですが私自身が落ち着いて授業ができませんでした。そして、力を入れて教えたいところが今回もややあいまいになったのは前年度と同様です。授業において声が聞き取りにくいという評価が多数ありますので、マイクなどを多用して改善に取り組みます。まとめプリントが遅いという指摘がありましたので、なるべく早く manaba に掲載します。何よりうれしかったのは、学生さん自身が勉強した、調べた、考えたという時間が多かったことです。基礎専門科目で積極的に勉強に取り組んでくれたのは、今年度の生理学 I 授業の大きな成果の一つです。総合評価は学科平均より若干下回った程度でした。私自身が落ち着いて授業に取り組み、授業内容をもう少し brush up させれば全体的評価もあがると思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	血液検査学実習 I				
担 当 者	堀江修・澤村暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございました。I. 学生自身が突出して高く、興味をもって取り組んでくれたことがわかります。IV. の学習成果以外、他の評価は例年に比べて少しずつよくなかったのですが、私自身が落ち着いて実習に取り組めず、実習内容にも反映してしまったからだと反省しています。結局マイナス点の方が少し多かったのですが、澤村先生にはいろいろな点でカバーしていただき、プラス点はすべて澤村先生のおかげです。次回は私のところでプラス点を上げて以前のように授業評価をすべての項目で学科平均点以上にしたいと思います。後期はがんばります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	労働衛生学Ⅱ				
担 当 者	堀江修・堀江宏美・大野雅子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.0	3.9	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございました。Ⅰ～Ⅴ、まで評価はすべて学科平均を下回ってしまいました。このような授業評価になる年も珍しいのですが、3名のオムニバス授業であり、15回全体で見た場合例年よりも統一感がなかったように思います。「授業でテスト問題を考えるのはいいと思うのですが、時間を取りすぎなのと何度も考え直させられたのはストレスでした。」という評価があり、双方向授業を生かそうとする頑張りが悪い方向に出た例となりました。担当の教員に伝えましたので、来年はストレスのかからない範囲で学生自身によるテスト問題作成が行われると考えています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	医療コミュニケーション演習				
担 当 者	今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>臨床検査技師は「縁の下の力持ちで、ひとりコツコツと仕事をする」というイメージを持たれることがあります。どのような職種でもコミュニケーションは欠かせません。</p> <p>本来の臨床検査技師の業務は「検査前の説明 → 検査の実施 → 報告書の作成 → 結果の説明・相談」までを含み、単に検査を行うだけでなく、検査の全過程に責任を持つことが求められます。「採血や採尿」「筋電図や肺機能」などの検査前説明に比べると、「検査結果の説明」はより難しく感じたのではないのでしょうか。患者さんへの説明には、検査に関する注意事項や検査値と病態の関連、結果の解釈、検査の意義など幅広い知識に加えて、適切に伝えるためのコミュニケーション力も必要となります。</p> <p>大学で学んだ知識と技術を基礎に、就業して得る知識・技術・経験を積み重ね、検査を行うだけでなく「検査の説明や相談ができる臨床検査技師」を目指してください。</p> <p>皆さんの今後の活躍を期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	生理機能検査学Ⅱ				
担 当 者	今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.2	4.1	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価にご回答いただき、ありがとうございました。</p> <p>「この授業でよいと思った点」として、「授業が半分終わった時に中間テストをしてくれたことがよかった。」というコメントをいただきました。授業内容が脳波と筋電図という異なる領域に大きく分かれているため、定期試験だけでは十分に出題できないという事情もあり、中間テストを実施しましたが、皆さんにとっても学習の助けになったとのことで、嬉しく思います。</p> <p>一方、「改善すべき点」として、「文章量が多いので、減らすか、箇条書きや矢印などでまとめていただけると、もっと分かりやすくなると思った」とのご意見もいただきました。教科書をベースにしている関係上、どうしても文章量が多くなってしまいますが、要点を整理し視覚的にもわかりやすい資料作成を、次年度に向けて工夫していきたいと思えます。</p> <p>脳波に関しては、α 波や β 波など基本的な波形の発生機序については比較的よくわかってきていますが、病的波形や賦活に対する反応など、詳細なメカニズムにはまだ不明な部分も残っています。とはいえ、基礎的な内容をしっかり理解すれば、決してとっつきにくいものではありません（ただし「脳波を読む」ことは確かに難しいのですが……）。また、筋電図については、神経系に関する基礎知識をもとに検査法が成り立っているため、まずは解剖学や生理学を整理し直すことが大切です。その上で、神経系疾患について学びながら、各疾患でどのような異常が検査に表れるのかを丁寧に理解していきましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	免疫学				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.1	4.0	4.0	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、臨床検査技師国家試験で出題される 10 科目のひとつ「臨床免疫学（免疫学的検査、輸血・移植検査）」の専門基礎科目に位置づけられます。よって、臨床検査技師を目指す皆さんにとって、国試に合格するためには相応の学修到達度が求められます。また、第 1 回授業でも述べましたが、医学を構成するさまざまな学問の中でも、免疫学は特に進歩が著しい分野のひとつです。具体的には、さまざまな病気の成り立ちに免疫系の関与が明らかにされ、また免疫の仕組みに着目した新たな治療法が開発されています。それに伴って、臨床検査においても新しい検査項目や、免疫学的手法を活用したより優れた検査法が導入されています。皆さんが臨床検査技師として社会に出られた後も、この流れは加速していくことでしょう。それはすなわち、皆さんが医療従事者として発展してゆく医学に対応し、その役割を果たしていくためには、常に新たな医療技術の修得が求められることを意味します。「免疫学」は、そのために必要な医療従事者としての基礎知識を修得する授業でもあります。</p> <p>免疫学は、多くの種類の細胞や因子などの複雑な連携を学ぶため、理系のどの学部・学科の学生にとっても難解に感じるどころです。まずは、免疫系の全体像を把握することが重要です。その上で、ある細部は全体像のどこに位置するかを理解し、その細部について国試での問われ方に即して復習することが効果的です。</p> <p>アンケートでは「スライドの情報量が多い」という趣旨のご意見をいただきました。初学者がまず要点は何かを知るためには、あえて詳しい説明を排した簡素なスライドの提示もひとつの方法ではあります。しかし、最終的に国試問題を正答できる到達度を考えた場合、要点とその周辺を「理解する」ことが必要です。本授業の資料は、そのような学修に必要な情報をなるべく漏れなく提示することを意識して作成しています。4 年生で国試に向けて総復習する際にも、活用していただければと思います。</p> <p>以下、他にもコメントをいただきましたので、主なものについて回答いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業資料の色が多くて見にくい。図はカラフルだと見やすいが、文字の多色は却ってわかりにくい。 <p>☞ 確かに多色使いは却ってそのカラーが相対的に強調されなくなります。逆効果だと思われる</p>					

箇所は改善していきたいと思います。色分けはまあ何となくという場合もありますが、たいていはかなり意識して選んでいます。重要なキーワードは赤もしくは青にする場合、そのワードのカテゴリに応じて色分けします。例えば、病名は赤、その病気の特徴などは青、みたいな要領です。

普通はこの2色（黒を入れて3色）までにすべきですが、病名でもない、その特徴でもない、別のカテゴリのワードを記すような場合に橙や緑も使うことがあります。紫は補足説明を挿入するような時に用います。また、イメージに沿うように免疫応答を促進するものは暖色系、抑制的なものは寒色系を使います。

このように多色のデメリットよりも、カテゴリ別などある法則を持って色分けするメリットの方が上回るとする場合にそのようなスライドができあがります。一部の学生にはこの色分けがイラストの使用とともに「視覚的にわかりやすかった」とのご意見をいただきました。

・プリントの4分割を左上→左下→右上→右下ではなく、左上→右上→左下→右下にしてほしい。

☞他の授業では「左上→右上→左下→右下」となっていることが多いのかなと推察します。私の資料が「左上→左下→右上→右下」としているのは、ある説明がスライド1ページで収まらない場合を想定してそのような順番にしています。どういうことかと言うと、スライドは左から右に文字を読みますが、全体としては上から下へと説明が続きます。これが2ページ目に続く場合、「左上→右上」といくよりも、「左上→左下」の方が「全体としては上から下」への流れが続くからです。「左下→右上」に続く順番になる場合は、あえて空白ページを挿入して「右上→右下」になるようにすることもあります。

授業によって順番が異なるのは不便に感じるかと思いますが、ページ番号を振っていますのでその順でご覧いただくように慣れていただければ幸いです。

・8回ではなく15回授業がよい。

☞そうなんです。本来「免疫学」は15回でやるものだと私も思います。医学部（医学科）や薬学部だと15回かそれ以上でしょう。しかしながら、臨床検査技師に限らず各種の医療専門職を養成するカリキュラムは常に時代の要請を受けて改変されてきました。臨床検査技師においては、より臨床検査の現場で必要とされる知識や技能を重視するカリキュラムとなってきたように思います。私が担当する国試科目名でいうところの「臨床免疫学」の領域では、輸血検査の領域が拡大し、「輸血移植検査学」という科目が独立しました。その分、免疫学・免疫検査学の授業時間は縮小されることになり、本授業「免疫学」はやむなく8回で行うことになっています。

回数が少ないために個別の詳細について言及することは難しいですが、常に免疫の仕組みの大きな流れや全体像を理解してもらい、国試で問われやすい重要な箇所は小テストなどで例示し、解説するように努めています。

・授業動画を視聴できるのは画期的でとても良い。

☞コロナ禍によりオンライン授業が導入されたことを契機に、収束後も動画を記録しています。当初は「濃厚接触」などで欠席を余儀なくされた学生への配慮が目的でしたが、復習に活用する学生が一部にいることや自分自身の振り返りにもなり、大した手間でもなく、また大容量のメモリー媒体が安価になったこともあって継続しています。しかしながら、最近は視聴者数も少なくなり、「番組打ち切り」も考えていました。このようなご意見がある限り、もう少し続けようと思います。

(伊藤 洋志)

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	免疫検査学実習				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	3.9	3.9	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、臨床検査技師国家試験で出題される 10 科目のひとつ「臨床免疫学（免疫学的検査、輸血・移植検査）」の専門科目である「免疫検査学」の実習科目にあたります。よって、臨床検査技師を目指す皆さんにとって、国試に合格するためには相応の学修到達度が求められます。国試専門科目の学内実習の意義としては、主に</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門科目（講義・座学）で学んだ臨床検査を実際に行うための技術を修得する。 2. 専門科目（講義・座学）ではわかり難い（イメージし難い）臨床検査法の原理や特性などを実習という体験を通して理解する（理解の深化）。 <p>があげられます。臨床検査室における免疫学的検査は自動化が進んでいるため、「免疫検査学実習」では2の意義が大きいところです。ただし、実際の反応像を観察して適切に検査結果を判定するという点で、1の要素もありました。</p> <p>いずれにせよ、皆さんは2年次までに学んだ「免疫学」・「免疫検査学」の知識に基づき、臨床検査技師として医療現場で役割を果たす技能の修得が求められます。定期試験はその到達度を測るものでしたが、成績が振るわなかった方は今一度、復習に励んでいただきたいと思います。</p> <p>さて、アンケートでは「話が長すぎてしんどい」という趣旨のご意見をいただきました。この授業は各回で主担当の教員が異なりますが、おそらくどの回にも概ねあてはまるご意見かと推察します。これは、この実習の進行上、次のような特徴があることと関係しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗原抗体反応の特性上、反応時間が長い場面がある。 ・班単位で自由に進めるのではなく、概ねクラス全体でタイミングを合わせて次の作業へと移る。 <p>これらによりクラス全体が手を止め、説明を聞くことに集中する時間を確保しています。そして、この実習は先にあげた「2.体験を通して理解する（理解の深化）」を目的として行うことが多いため、講義的な時間が長くなりがちになります。</p> <p>実習室は講義室とは異なり、椅子に背もたれがないことや実験台とモニターの方向が90°の関係にあるために体勢を変える必要があるなど、長時間の説明を行うには不向きな環境である</p>					

ことは確かです。よって、その日の実習の事情に応じて、長い説明は1回のみ、あるいはあまり長くない説明を複数回にわけて行うなど、工夫したいと思います。

(伊藤 洋志)

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	血液検査学 I				
担 当 者	堀江修・澤村暢・池本敏行				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.2	3.5	3.4	3.6	3.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をありがとうございました。今回は批判的評価が多いので、自由記載の例をあげながら、今後の改善点の目標を伝えたいと思います。すべての評価をとりあげられないことはご容赦ください。「スライドがカラフル過ぎて何が重要か分からない。」これはよく言われるのですが、見やすいという反対の意見もあり、もう1~2色を落として対応したいと思います。「堀江先生の話し方が聞き取りづらい。」これもよく言われます。マイクを駆使して話すことでもう少しは聞き取りやすいようにしますが、中盤(6回目の授業ぐらい)からマイペースにもどってしまいます。1回の授業の中でも全体の15回の授業の流れの中でも、しっかり発声ができているか振り返ります。「先生が答えが分からずオドオドされると、こちらは何も分からないし、不安である。」血液検査学の中でもそれぞれ専門分野があり、それ以外のことはわからないことも多々出てくるのですが、もう少し勉強しているとオドオドもしないと思うので、その点大いに反省しています。「堀江先生の講義は受けたくない」という評価もありますが、今後「血液検査学II」「労働衛生学I・II」「環境生理学」「血液検査学実習I・II」と担当があります。少数の学生さんの意見で抗議をオムニバスにすることはできませんので、同意見の方何人かで学科長に相談に行ってください。「血液検査学II」をオムニバスにすることはできそうです。2年生後期では3教科担当があるので、アンケートに記入したことが1つでも改善されるように努力して臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	物理学				
担 当 者	高久圭二				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.3	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>医療検査学科の学生は化学や生物は得意ですが、物理アレルギーの人が多くいますので、百聞は一見にしかずで、できるだけ小道具を使って説明しました。授業スピードが速いという学生もいますが、8回で終わらせるためには、このスピードとなります。また、最終授業後の感想では、物理に対する苦手意識がなくなったという学生もおり、良かったと思っています。アンケートでは実際の機器などを見れたり触れたりして楽しかったという感想もありました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	情報科学概論				
担 当 者	関 雅 幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.1	4.3	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>学生による授業評価調査は「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。」、「授業はわかりやすい内容であった。」という事柄に対して課題が残るという結果になりました。</p> <p>授業中にも話したかと思いますが、コンピュータをいろんなことに使っていると、その中で情報科学関連の知識が増えていきますので、とにかく触ってください。できればプログラミングにも挑戦してみてください。きっと楽しいですよ。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	医療工学				
担 当 者	関 雅 幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.0	4.3	4.0	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>学生による授業評価調査は「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。」、「授業はわかりやすい内容であった。」という事柄に対して課題が残るという結果になりました。</p> <p>1 年前期に物理に関連した科目を学ぶことになり、慣れていない分野に対して苦勞された方もいらっしゃるかもしれませんが、心電図等では電圧の変動を見ていくこととなりますので、"生体信号をとらえるために必要"と認識していただき、苦手だった方は後期の実習も利用してしっかり復習をしてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	化学 I (無機・物理化学)				
担 当 者	中嶋聡一				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.3	4.6	4.3	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>ほとんどの項目で良い評価をいただいたようで励みになります。講義については皆さん真面目に取り組んでいただいた印象があり、とても楽しく、やりやすかったです。ありがとうございます。</p> <p>「授業内容をよく理解できた」の項目で評価 2 を示された学生が受講者 87 人中 2 人いらっしゃいました。私の力不足だと思います。その方にも将来、うまく教えられる存在が現れると思いますので、どうか、化学をあきらめず、学修を続けていただくと幸いです。</p> <p>他に「なんでいつも同じ服着てたんですか」とコメントいただきました。真面目に答えると、講義の内容を思い出す際の記憶の鍵として、あえて印象に残る同じ服を続けました。講義ではこのような工夫をいくつか施しており、その結果満足いただけた学生さんが多かったのかとも受け取っております。</p> <p>その他、ほとんどはありがたいことにポジティブなコメントでしたが、改善点として 2 つ次のようなコメントをいただきました。「寒くて集中できないときがあった」1 名、「スライドもう少しわしく書いて欲しい」1 名。これらについては全体のバランスも考えながら対処したいと思います。ありがとうございました。</p>					